

平成 22 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分類] 普及技術

[成果名] ポルトフロアブルは大豆栽培でのイネ科雑草防除に有効である

[要約] ポルトフロアブルは薬量 200～300ml/10a を散布液量 100l で、10 葉期までのイネ科雑草に散布すると高い除草効果がある。

[担当] 農業試験場作物部、農業技術課

[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

県内の大豆栽培では土壌処理型除草剤を慣行として用いているが、降雨や播種等作業体系の都合上から散布時期を逸することが多い。また、過乾燥条件での散布による効果低減により残草が問題となる。さらにイネ科雑草に対するこれまでの生育期茎葉処理型除草剤は、5 葉齢までが適応範囲であるため、散布時期を逸した場合や多発した場合には除草剤での防除は困難であった。そこで、高葉齢のイネ科雑草に効果の高い生育期茎葉処理型除草剤を選定し、大豆作の高品質、安定多収に資する。

2 成果の内容・特徴

- (1) イネ科雑草が 8 葉期までで出穂に至っていない場合には、200ml/10a を散布液量 100l とし、散布すると高い除草効果がある。
- (2) イネ科雑草が 8 葉期で出穂個体がある場合には、200～300ml/10a を散布液量 100l とし、散布すると高い除草効果がある。
- (3) イネ科雑草が 9～10 葉期で出穂個体がある場合には、300ml/10a を散布液量 100l とし散布すると除草効果がある。

農薬登録内容

[一般名および成分含有量] キザロホップエチル 7.00%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] B - s 類

[対象作物に対する適用登録状況](平成 23 年 1 月 11 日 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用時期	適応土壌	10a 当たり使用量	使用方法	本剤の使用回数	10a 当たり散布液量
だいず	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	雑草生育期（イネ科雑草 3～10 葉期）（但し、収穫 30 日前まで）	砂土を除く全土壌	200～300 ミリリットル	雑草茎葉散布	1 回	100 リットル

3 利用上の留意点

- (1) 大豆の播種期および栽培様式、気象条件によりイネ科雑草の葉齢と草高との関係は大きく変動するので、大豆より高い草高のイネ科雑草に対して散布する場合は、葉齢、出穂の有無を十分に確認して処理時期、処理量を決める。
- (2) イネ科作物には薬害があるので、周囲にイネ科作物がある場合は薬剤が飛散しないように十分に注意する。
- (3) 高葉齢のイネ科雑草に対しては葉身・葉鞘の退色、枯死始めまで 1 週間程度を要する。
- (4) 使用時期は収穫前 30 日までであり、使用時期を厳守する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

- (1) ポルトフロアブルは 8～10 葉期のノビエに対して高い除草効果が認められた。低薬量の場

合、8葉期処理でノビエの出穂個体が散見された場合は枯死が不完全な個体が残草となり、10葉期処理でノビエの出穂個体が多い場合は14%の残草となった(表1)。薬害は認められなかった(表2)。

表1 ポルトフロアブルの効果(平成21年、農業試験場)

処理		処理後66日雑草量	
タイヌビエ葉齢	薬剤量 (ml/10a)	イネ科 (%, g/m <sup>2</sup> )	(非イネ科) (%, g/m <sup>2</sup> )
8	200	4.0	40
8	300	0	15
10	200	14.3	11
10	300	0.2	4
無処理		242	54

表2 大豆の生育(平成21年、農業試験場)

処理	主茎長 (cm)	主茎分枝数 (/m <sup>2</sup> )	着莢数 (/m <sup>2</sup> )
8葉期・200ml	70	101	522
8葉期・300ml	69	95	553
10葉期・200ml	74	34	436
10葉期・300ml	70	83	543
無処理	68	57	537

試験条件等は表1と同様

数値単位：(試)および(対)は無処理区対比割合・無処理区は重量、処理時のタイヌビエ生育(処理日)：8葉期(8葉期～一部出穂始め、草高約70cm、8月12日)・10葉期(9葉期～出穂期、草高約100cm、8月21日)、調査：9月18日、品種：「つぶほまれ」、播種：7月14日、播種量：8kg/10a、条間：40cm、播種法：ドリル播、散布液量：100l/10a、4m<sup>2</sup>/区、3反復

(2) ポルトフロアブルは5～10葉期のノビエ等の一年生イネ科雑草に対して、優れた除草効果が認められた(表3)。処理後の生育は良好で薬害は認められなかった(図表略)。

表3 ポルトフロアブルの効果(平成22年、上小農業改良普及センター)

処理	調査期	メヒシバノビエ		合計
		(%, g/m <sup>2</sup> )	(%, g/m <sup>2</sup> )	
(試)ポルトフロアブル	処理前	67	24	44
	18日後	0	0	0
(対)ナブ乳剤	処理前	83	83	83
	18日後	0	201	68
無処理	処理前	21.9	24.1	45.9
	18日後	49.9	25.7	75.5

数値単位：(試)および(対)は無処理区対比割合・無処理区は重量、前処理：全区播種後にクリアターン乳剤、薬剤量・薬液量(/10a)：両剤250ml・10L、処理時のノビエ葉齢：5～10葉期、処理期：8月6日、場所：上田市五加、沖積土・埴土、品種：「ナカセンナリ」、播種期：7月9日、播種様式：条間75cm・ドリル播、1区14a、無反復

## 6 特記事項

[公開]制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

高標高地域2年3作体系における省力的栽培法の確立と実証、平成20～23年度(2007～2011年度) 独法受託

県植物防疫協会委託試験(普及展示)、平成22年度(2010年度)、その他